

## Japanese female urologists' work-life balance during the COVID-19 Pandemic (COVID-19感染拡大下における女性泌尿器科医のワークライフバランス)

西田幸代<sup>1,2)</sup>、佐々木ひと美<sup>1,3)</sup>、前田佳子<sup>1,4)</sup>、小山雅之<sup>5)</sup>、宮澤克人<sup>1,6)</sup>、舩森直哉<sup>1,2)</sup>

- 1) 日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会
- 2) 札幌医科大学医学部泌尿器科学講座
- 3) 藤田医科大学医学部腎泌尿器外科学講座
- 4) 昭和大学医学部泌尿器科学講座
- 5) 札幌医科大学医学部公衆衛生学講座
- 6) 金沢医科大学医学部泌尿器科学講座

### 【要約】

COVID-19の感染拡大は日本の泌尿器科医にも大きな影響を及ぼした。2020年5月、日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会は本学会員を対象にオンラインアンケートを実施しその結果をまとめた。回答した1048名(回答率12.3%)の内訳は、男性931名、女性111名、その他6名であった。ワークライフバランスが悪化した要因を明らかにするのにロジスティック回帰分析を行ったところ、「役職が高い」「不安がある」「仕事量が多い」「家事負担が大きい」の4つが影響していることがわかった。一方、ワークライフバランスが改善した要因の解析では、「役職が高い」「不安がある」「仕事量が多い」はマイナスに影響していたが、唯一「女性」がプラスの要因であった。日本の女性医師のパートナーの6割は男性医師と言われるが、感染拡大下に様々な業務が制限される中、パートナーの帰宅時間が早まったことで女性泌尿器科医が担う家庭での負担が軽減されワークライフバランスが改善した可能性がある。また様々な混乱の中でも周囲とコミュニケーションを取りながら社会に適応する女性たちのレジリエンス力(回復力)も影響した可能性がある。組織の性別的多様性を進めるべき理由の一つに、女性たちが持つレジリエンス力を取り込めることがあると考えている。